

有田市の子どもたちの状況

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果から

全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること」を目的に実施しています。これらの結果を児童生徒の学力や学習状況を測る一つの指標として、全国の状況等をもとに分析し、成果と課題を検証するとともに、教育活動の充実や日々の授業改善を図り、児童生徒一人一人の学習状況の改善等につなげていきます。

1. 調査概要

◆調査日時：令和5年4月18日（火）

◆調査事項：①児童生徒：教科調査〔(小)国語・算数(中)国語・数学・英語〕
質問紙調査（生活習慣や学習環境等に関する調査）

②学 校：質問紙調査（学校における指導方法や教育条件の整備の状況等に関する調査）

◆対象学年：小学校第6学年及び中学校第3学年

◆調査の特徴：

・「知識」と「活用」を一体的に問う調査問題

◆市内実施学校数及び参加人数

・小学校調査・・・7校（204名）

・中学校調査・・・3校（162名）



平成30年度までは、

・「A問題」（主として「知識」に関する問題）

・「B問題」（主として「活用」に関する問題）

に分かれていましたが、平成31年度（令和元年度）よりA問題・B問題が統合され、「知識」・「活用」を一体的に問う形式での出題となっています。

2. 教科に関する調査結果概要

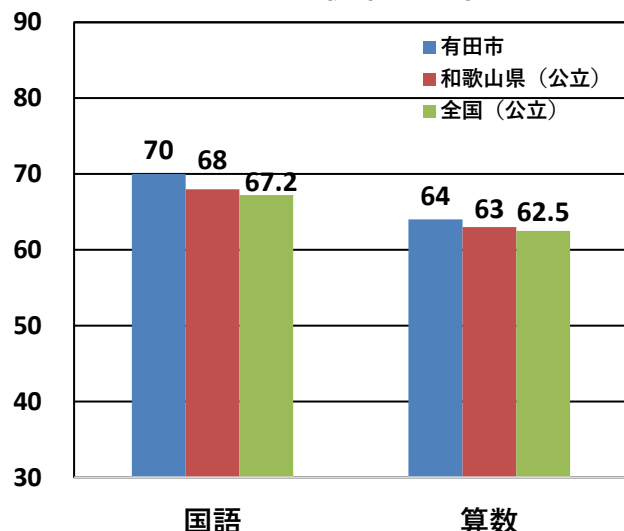
① 各教科における調査問題数と平均正答数

小学校6年生	国語	算数
調査問題数	14問	16問
全国平均正答数	9.4問	10.0問
有田市平均正答数	9.7問	10.3問

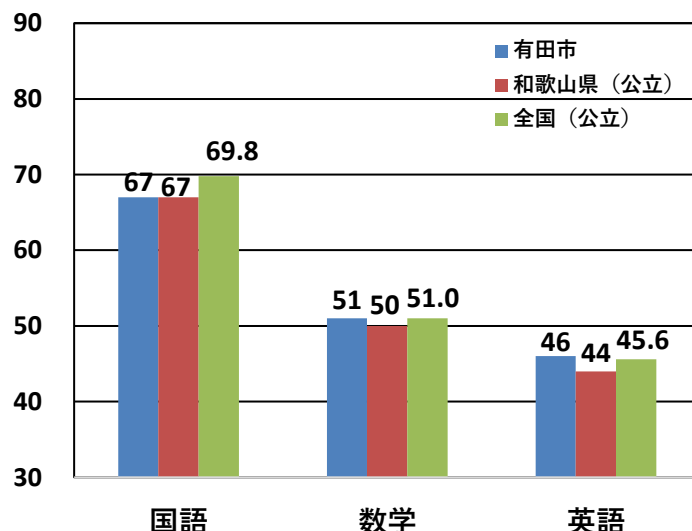
中学校3年生	国語	数学	英語
調査問題数	15問	15問	17問
全国平均正答数	10.5問	7.6問	7.7問
有田市平均正答数	10.0問	7.7問	7.8問

② 各教科における平均正答率（％）

小学校第6学年



中学校第3学年



表は各教科の調査問題数（問）と平均正答数（問）を、グラフは各教科における有田市、和歌山県（公立）、全国（公立）の平均正答率（％）を表したものです。小学校第6学年において、国語、算数とも全国平均正答率を上回っています。中学校第3学年において、国語は全国平均正答率を下回っていますが、数学は全国と同じ、英語（※話すことは除く）では、全国平均正答率を少し上回っています。

3. 教科に関する調査結果

国語 【学習指導要領の内容別正答率】

◎…全国と比べて3pt以上高い ○…同程度（全国平均以上）
▽…同程度（全国平均以下） ▼…全国と比べて3pt以上低い

国語		小6	中3
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	▽	▼
	(2)情報の扱い方に関する事項	○	▽
	(3)我が国の言語文化に関する事項		▽
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	◎	▽
	B 書くこと	◎	▼
	C 読むこと	◎	▽

小学校6年生では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域すべてにおいて全国平均を3pt以上上回っていますが、中学校3年生では、すべてにおいて全国平均を下回り、特に「書くこと」において課題がみられます。「我が国の言語文化に関する事項」について、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回っており、特に中学校3年生では、3pt以上下回っています。

<中3国語>大問3四

【小学校 国語】(◇できている ◆課題がある 数字は正答率)

- ◇「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る」〔2二〕ことは、全国平均を大きく上回っています。(有田市 72.5% 全国比+5.1pt)
- ◆「日常よく使われる敬語を理解する」〔3三〕ことについて課題があります。(有田市 50.5% 全国比-7.1pt)

【中学校 国語】

- ◇「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる」〔1四〕ことはできています。(有田市 84.6% 全国比+2.1pt)
- ◆「文脈に即して漢字を正しく書く」〔3二〕ことに課題があります。(有田市 32.7% 全国比-11.2%)
- ◆「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」〔3四〕ことに課題があります。(有田市 63.6% 全国比-8.5%)

伝えたいことが「『判じ絵』の解説の面白さ」なので、**具体例**として「判じ絵」を示して、その「判じ絵」の解説の仕方を書くことが**根拠を明確にすること**になります。自分の考えが伝わる文章にするために「**根拠を明確にして書く**」とはどのようなことなのか理解できるように指導します。

正答例

A〔図3〕は、真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解説すると、「皿」という意味になる。
B〔図3〕は、「砂」という漢字が逆さまに書かれているので、漢字の読み方も逆にすると、野菜の「ナス」という意味になる。

有田市
正答率
63.6%
無解答率
8.6%

- ①どちらか一つを選んで、その記号を塗りつぶしている
②【図3】に適切に続くように書いている
③選んだ候補について、解説の仕方を書いている

<問題文より一部抜粋>

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむのである。
(ア) ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」が必要になる。(イ) 言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。



■「判じ絵」の解読の面白さ

「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。

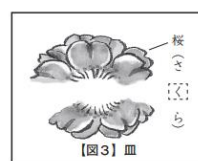


【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

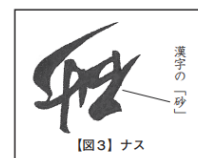
【図2】スズメ

【図3】

【図3】は、



【図3】皿



【図3】ナス

問四 ■「判じ絵」の解説の面白さに【図3】としても一つ具体例を示して、解説の仕方を説明しようとしています。あなたならどう書きますか。二つの候補から一つ選び、【図2】の説明の仕方を参考にしてください。

算数 / 数学	小6	中3
A 数と計算 / A 数と式	◎	○
B 図形	▽	▽
C 測定		
C 変化と関係 / C 関数	○	▽
D データの活用	◎	▽

小学校6年生、中学校3年生とも「A数と計算/数と式」の領域においては全国平均を上回っていますが、「B図形」の領域においては、ともに全国平均を少し下回っています。
小学校6年生では、「Dデータの活用」で全国平均を3pt以上上回っていますが、中学校3年生では全国平均を少し下回っています。

【小学校 算数】(◇できている ◆課題がある 数字は正答率)

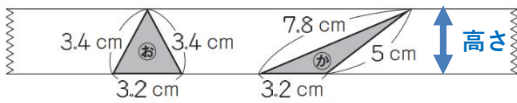
- ◇「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をする」[1(4)] ことについて全国平均を大きく上回っています。(有田市 89.2% 全国比+8.4pt)
- ◆「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」[2(4)] ことに課題があります。(有田市 16.2% 全国比-4.6pt)

【中学校 数学】

- ◇「数と整式の情報の計算をする」[2] ことはできています。(有田市 82.1% 全国比+1.6pt)
- ◆「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解する」[3] ことに課題があります。(有田市 27.8% 全国比-2.6pt)

<小6算数>大問2(4) (「B図形」領域)

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- ㊸の面積のほうが大きい。
- ㊹の面積のほうが大きい。
- ㊸と㊹の面積は等しい。 **有田市正答率 16.2%**
- ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

【正答の条件】

「3」を選び、①②の全てを書いている。

- ①(お)と(か)の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数
- ②(お)と(か)の高さが等しいことを表す言葉

【誤答例が多かったもの】「4」を選び「高さについて具体的な長さが示されていない」と判断した児童(有田市)は25.0%であった。

三角形や平行四辺形の面積についての理解を深め、「底辺の長さが等しいとき、高さの具体的な長さが分からなくても、高さが等しいと分かれば、三角形や平行四辺形の面積は等しい」と実感を伴って判断できるように、図形の性質や意味を基に公式を考察するなど指導の充実を図ります。

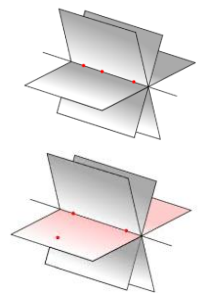
<中3数学>大問3 (「B図形」領域)

3 空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

- ア 1点をふくむ平面は1つに決まる。
 - イ 2点をふくむ平面は1つに決まる。
 - ウ 1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まる。
 - エ 1つの直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まる。
- 有田市正答率 27.8%**

【趣旨】①事象を、数・量・図形等に注目して観察すること
②空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解していること

解答類型	反応率(%)	正答	有田市
1 ア	6.5		13.0
2 イ	26.0		23.5
3 ウ	35.1		34.0
4 エ	31.1	◎	27.8
99 上記以外の解答	0.4		0.6
0 無解答	0.8		1.2



空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを観察や操作等の活動を通して理解できるようにします。身の回りにおける事象を図形として捉え、考察することを通して、空間にある平面について理解を深められるように指導の充実を図ります。〔【例】三脚と地面が接地している部分を「点」として捉え、3点とそれらを含む平面に着目して考えるなど〕※国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査報告書」より

英語 【学習指導要領の領域別正答率】

◎…全国と比べて3pt以上高い ○…同程度(全国平均以上)
 ▼…同程度(全国平均以下) ▼…全国と比べて3pt以上低い

英語	中3
(1)聞くこと	▽
(2)読むこと	○
(3)話すこと〔やりとり〕	▽(※)
(4)話すこと〔発表〕	▽(※)
(5)書くこと	▽

※中学校3年生のみの実施

「読むこと」においては、全国平均正答率を上回っていますが、「聞くこと」「書くこと」においては、全国平均正答率を少し下回っています。
 ※注：(※)「話すこと〔やりとり〕」「話すこと〔発表〕」について、全国平均の値は、実施状況等を考慮した統計的補正をかけ、全国値として推定されたもの。>

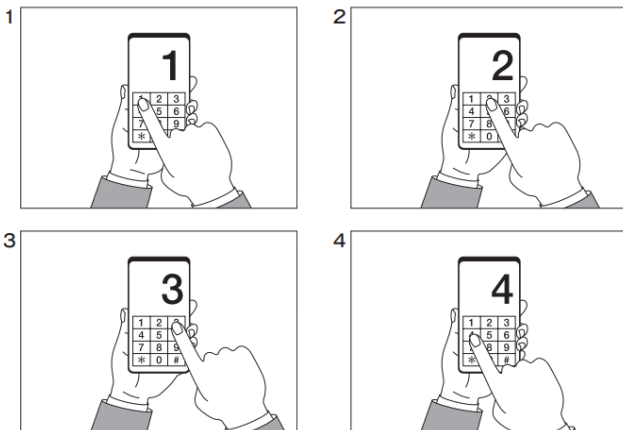
【中学校 英語】(◇できている ◆課題がある 数字は正答率)

- ◇「文と文の関係を正確に読み取る〔7(1)〕」ことはできています。(有田市 66.7% 全国比+6.9pt)
- ◆「日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る(2)」ことに課題があります。(有田市 51.9% 全国比-9.2pt)
- ◆「相手の行動を促す」という言語の動きを理解し、依頼する表現を正確に書く〔9(2)〕ことに課題があります。(有田市 27.8% 全国比-1.2pt)

<中3英語>大問2 (「聞くこと」領域)

2 (放送問題)

あなたは買物からの帰宅後、ショッピングセンターに傘を忘れたことに気が付きました。電話で問合せをしたところ、自動音声案内につながりました。流れてくる音声メッセージを聞き、あなたが選択すべき番号として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。



(スクリプト) <放送内容>

This is ABC shopping center. Thank you for calling. How can we help you? If you want to know our opening hours, please choose number 1. If you want to join our shopping club, please choose number 2. **If you lost something in our shopping center, please choose number 3.** If you have any questions about shops and restaurants in our shopping center, please choose number 4.

有田市
正答率
51.9%
全国比
-9.2pt

	解答類型	反応率 (%)	正答	有田市
1	1 と解答しているもの	8.2		14.2
2	2 と解答しているもの	15.9		16.0
3	3 と解答しているもの	61.8	◎	51.9
4	4 と解答しているもの	14.0		17.9
99	上記以外の解答	0.0		0.0
0	無解答	0.2		0.0

<中3英語>大問9 (2) (「書くこと」領域)

(2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト (speech contest) についてスミス先生 (Mr. Smith) 宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直さない。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,

How are you?

We have a speech contest next Friday.

The speech contest starts at 10:00.

You have to come to the speech contest.

有田市正答率
27.8%

無解答率 20.4%

【コメント】



この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。

【正答例】 (依頼する表現)

Can you come to the speech contest?

解答類型5の例

<誤答例>

・Have you come to the speech contest?

・You want to come to the speech contest.

依頼する表現以外の疑問文になっているなど、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解して依頼する表現を書くことができていない、または、依頼する英文に書き直すという状況を理解できていないと考えられる。

「聞くこと」においては、目的に応じて必要な情報は何かをはっきりさせて、それらに関連する語句や表現に着目して必要な情報を聞き取ることができるようにすることが大切です。学習者用デジタル教科書などを活用しながら「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるように指導します。「書くこと」においては、言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択できるように、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げるなど指導の充実を図ります。

質問紙調査の結果から ※数字は児童生徒の割合 (%)

基本的な生活習慣に関すること ～見直そう！「早寝・早起き・朝ご飯」～

質問項目 (※「 している/どちらかといえばしている 」と答えた割合)	小6		中3	
	有田市	全国	有田市	全国
朝食を毎日食べていますか	95.7	93.9	92.3	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	85.1	81.0	80.8	78.0
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.4	90.5	91.6	91.3

子供たちの健やかな成長のためには、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠など基本的な生活習慣が大切です。基本的な生活習慣の確立は、子供たちの学習意欲や体力を支える基盤となります。各学校においては、ほけんだより等で情報を共有し、「早寝・早起き・朝ごはん」を基本とした規則正しい生活習慣の定着に向け、家庭との連携・協力のもと、引き続き取組を進めていきます。



学習習慣・読書習慣に関すること

質問項目 (※「 当てはまる/どちらかといえば当てはまる 」と答えた割合)	小6		中3	
	有田市	全国	有田市	全国
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか (予習・復習含む)	83.3	70.7	53.9	55.0
学校の授業時間以外に、普段 (月～金曜日) 1日当たり1時間以上勉強をしている割合 (学習塾・家庭教師・インターネット活用も含む)	71.8	57.1	56.3	65.8
学校の授業時間以外に、普段 (月～金曜日) 全く読書をしない 児童生徒の割合 (教科書、参考書、漫画や雑誌を除く) (※数値が低いほど良い傾向)	17.2	24.5	37.1	36.8

学習内容の定着を目指すことだけでなく、児童生徒自らが主体的に学ぶ資質・能力の育成と生涯にわたって学び続ける基礎を培うため、今後も引き続き家庭との連携を図りながら、各学校において取組を進めていきます。学校図書館の活用について、学校司書の配置等により学校図書館 (図書室) の環境を整えるとともに、各学校においては読み聞かせなどをはじめとする読書活動の充実に向けた取組も進めています。



有田市では、市内各小中学校に通う児童生徒のとおきの本を集めた読書リーフレットを作成し、児童生徒を通じて家庭にも配布するなど読書活動の推進にも力を入れています。また、市図書館と連携し、1人1台端末から電子書籍を検索して読むことができるよう、児童生徒が利用できるIDを配布しています。

挑戦心、達成感、自己有用感等に関すること

質問項目 (※「 当てはまる/どちらかといえば当てはまる 」と答えた割合)	小6		中3	
	有田市	全国	有田市	全国
自分には、よいところがあると思いますか	88.6	83.5	89.2	80.0
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	95.2	89.8	90.4	87.3
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	86.6	68.5	82.6	66.4

学校に行くのは楽しいと思いますか	91.4	85.3	88.6	81.8
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	87.0	76.5	86.2	77.6

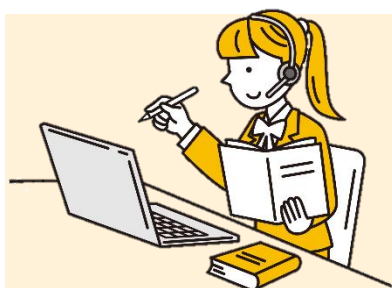
「自分には、よいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」「学校に行くのは楽しい」などの項目について、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。急速な社会の変化の中で、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められています。そのためには、自ら考え、行動していくことのできる自立した個人として、心豊かにたくましく生き抜いていく基礎を培うことがより一層重要になってきます。

一人一人の資質・能力をさらに伸ばしていけるよう、学校教育全体で取組を進めてまいります。



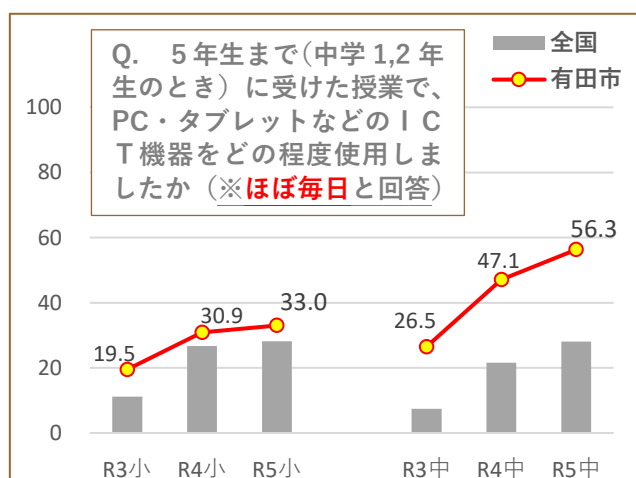
ICT を活用した状況に関すること

質問項目	3%以上高い…ピンク		3%以上低い…青	
	小6	中3	有田市	全国
5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を ほぼ毎日 使用したと回答した割合	33.0	28.1	56.3	28.1
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか （※「当てはまる/どちらかといえば当てはまる」）と回答した割合	97.1	93.3	95.1	94.6



令和3年4月にGIGAスクール構想の実現に向け一人一台端末と校内LANを整備し、今年で3年目になります。特に中学校においては、全国と比較して、ICT機器の活用がかなり進んでいる状況にあります。

今、学校では、「子供が学ぶ」授業への転換が求められています。一人一人の子供を主語にした学びを実現するために、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠であると考えています。



上記質問項目におけるR3からR5までの経年変化を表しています。小中ともに全国を上回っており、特に中学校では、大きく上回る結果となっています。

令和5年度は、令和3・4年度に引き続き、市内各学校のGIGA推進リーダーからなるプロジェクトチームを充実させ、組織的な推進に関わる「推進リーダー会議」と個人のスキルアップを目指す「基礎的な操作研修」という、2つの目的別の会議及び研修を実施しています。長期休業中には、各学校や先生個人のニーズに合った操作研修を実施し、教員自身が学ぶ機会となっています。

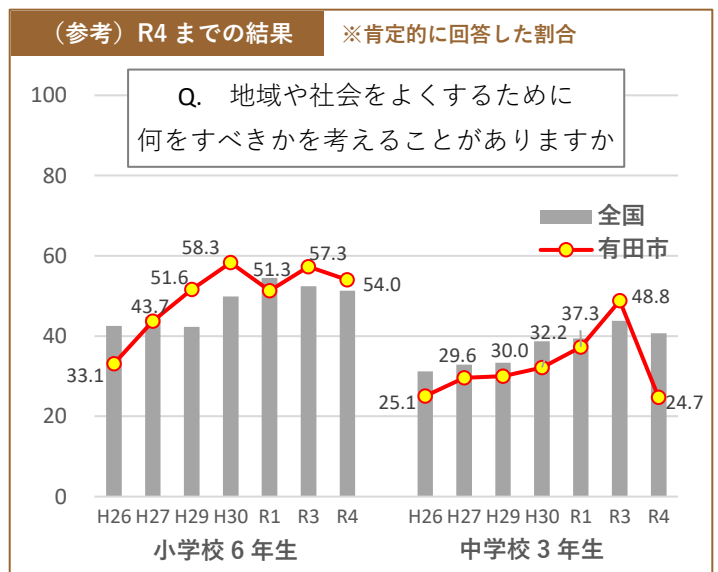
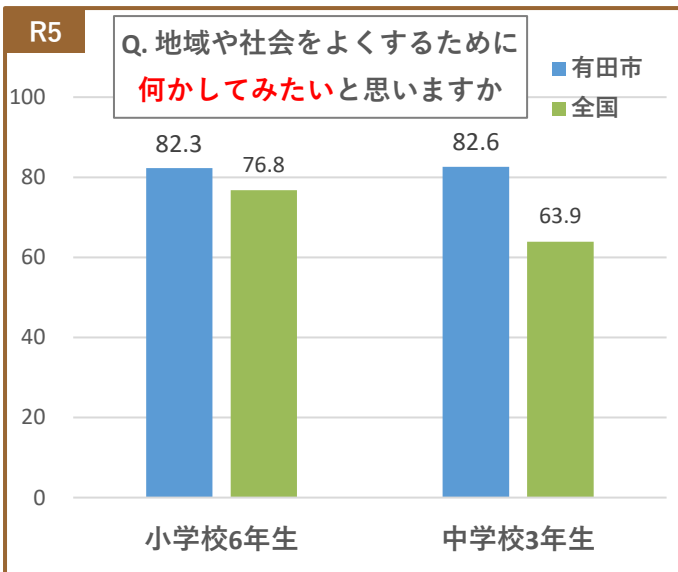
多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、個別最適化され、子供たちの資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するとともに、これまでの教育実践とICTをベストミックスさせることにより、児童生徒の力を最大限に引き出せるよう授業改善を行ってまいります。また、子どもたち自身がICTを活用できる情報活用能力の育成にも引き続き力を入れていきます。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問項目 (※「当てはまる/どちらかといえば当てはまる」と答えた割合)	小6		中3	
	有田市	全国	有田市	全国
5年生までに、(中1,2のときに) 受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	83.3	78.8	84.4	79.2
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	84.2	81.8	86.2	79.7
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	88.5	77.4	76.6	69.2

地域や社会に関わる活動の状況等に関すること

質問項目 (※「当てはまる/どちらかといえば当てはまる」と答えた割合)	小6		中3	
	有田市	全国	有田市	全国
今住んでいる地域の行事に参加していますか	60.3	57.8	55.1	38.0
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか (※R4までの質問項目は「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」)	82.3	76.8	82.6	63.9
日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	86.6	78.1	77.2	63.2



有田市では、平成29年4月に市内すべての小中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールの仕組みを導入しました。コミュニティ・スクールは、育てたい子供像、目指すべき教育の目標を学校が地域と共有し、一体となって子供たちの成長を支えていくことをねらいとしています。

令和6年4月には市内の中学校を1校に統合した「有和中学校」が開校します。現在、市内3中学校が協働して行っている「ゆうわプロジェクト」では、「様々な立場の人と関わることで自分や友達のよさに気づき、自分の生活や周りの環境に関心をもつ」ことを目的としています。

これからの社会を生きるために必要な資質・能力の育成に向け、学校と地域が目標を共有しながら、地域や社会に貢献しようとする意欲や態度を養うとともに、郷土に対する誇りや愛情を育てていきます。

